

# 報 告 書

出張（出席者） 氏名	事務局 茂野
出張用務及び会議名	CLT 実験棟の構造見学
会議等の場所	国立研究開発法人建築研究所敷地内（茨城県つくば市立原1）
実行年月日	平成27年12月10日（木）
参集者の範囲	新潟県 CLT 等普及協議会会員

○ 見学内容

CLT 実験棟の構造見学

○ 出席者

16名

○ 見学内容・報告

プロジェクト名：「木質材料需要拡大のための CLT パネルの特徴をいかした試作棟」

（建築概要）

延床面積：166m<sup>2</sup>、用途：実験棟、使用樹種：すぎ、構造形式：CLT 工法（2階建て）

主な高さ：軒高8,630mm、最高高さ8,980mm

意匠設計：株式会社イトレス&ACD、施工：木村建造株式会社

\*本建物は実験棟であるため、確認申請不要との判断（行政庁）されている。

従って、建築物ではなく試験体扱いとなる。

（特徴）“CLTらしさとCLTだからできる構造”へのチャレンジ

- ① 高さ6mの通し壁の圧力（国内で現在製造できるCLTの最大サイズで高さ約6mのパネルを通し壁として使用）
- ② 木造建築で3mのキャンチレバー（建築の東側は居室側から3m跳ねだし）
- ③ 内装はCLTをそのまま使用（CLTの持つ独自の重厚感を完成後も肌で感じることができる）

（材料及び施工）

CLT 製品製造／銘建工業(株)、CLT 製品加工/株スカイ

床：210mm厚（5層7プライ）、（7層7プライ）、

壁：90mm厚（3層3プライ）、150mm（5層5プライ）、屋根：150mm厚（5層5プライ）

つなぎ梁：オウシュウアカマツ集成材

国内で生産できる最大サイズ6×2.7mのCLTが1,2階の通しパネルや2階床、2階屋根の3mのオーバーハングとして使用されている。13トンのラフタクレーンを使い7人/8日間で上棟している。

CLT パネルを4点支持によりクレーンで吊り上げ、5種類の接合金物用いて接合施工していく。

（実証研究）

日本 CLT 協会は研究所と共同で CLT 現しの室内環境把握、結露状況把握、オーバーハングの変形、地震時振動特性、耐久性、遮音性能、歩行振動、室内外の CLT 面塗装の評価を研究していく。

2016年2月末の完成を目指している。



状況写真

見学状況



状況写真

①高さ6mの通し壁



状況写真

②3mキャンチャーレバー







状況写真

③内装はCLTをそのまま使用



状況写真

床パネル

5層7プライ

強度が必要な場合の仕様



状況写真

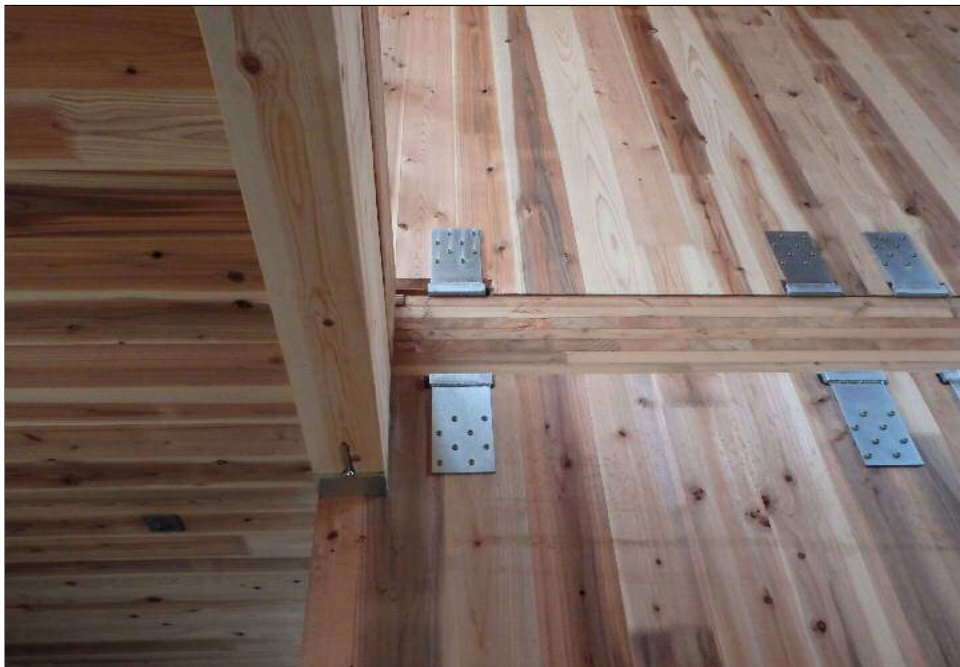
土台部分

基礎パッキンと  
防腐処理された米ヒバ材使用



状況写真

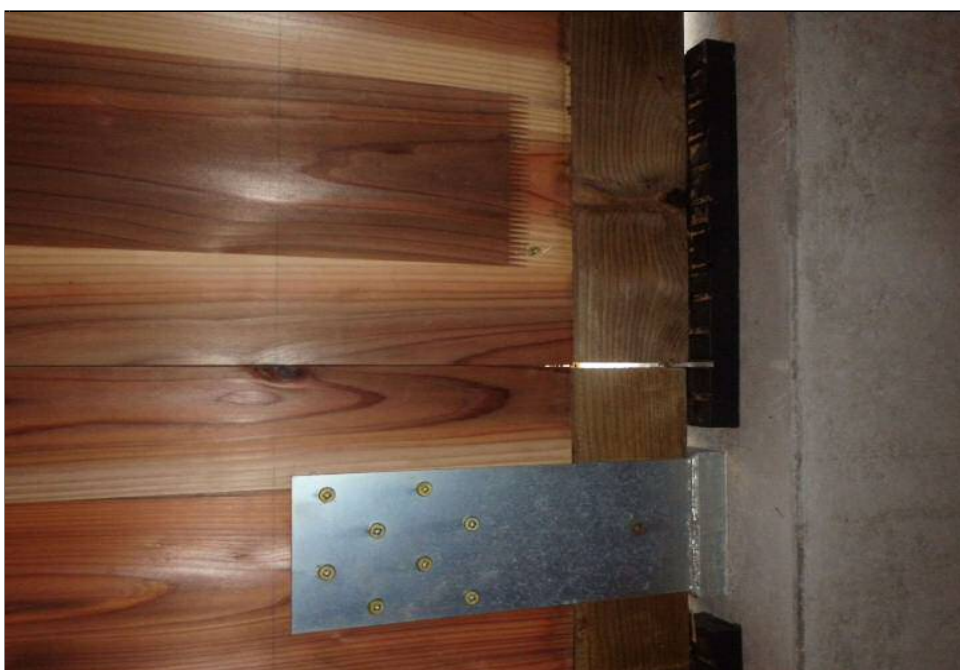
4点支持による  
クレーン刷り上げ部分



状況写真

1階と2階の接合部

壁脚用U型金物と  
壁頭用U型金物



状況写真

土材部分

U型鋼板添板ビス留め金物